

平成30年度病虫害発生予察予報第2号（5月）

平成30年5月9日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生面積（地域名）
水稻	イネミズゾウムシ	<u>やや多(県下全域)</u>
かんきつ類	黒点病 カメムシ類	<u>やや多(県下全域)</u> <u>多(県下全域)</u>
抑制、促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	<u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央、西) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(中西、西)</u> <u>やや多(中西)</u> 、やや少(中央、西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央、西)</u>
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ	<u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(西)</u> 、やや少(東) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(東、中央)</u> <u>やや多(県下全域)</u> <u>やや多(東、西)</u> 、やや少(中央) 平年並(中央)、やや少(東、西)
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ	<u>やや多(中央、中西)</u> 、やや少(東) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(東) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、少(東) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> 、やや少(中央) <u>やや多(東、中西)</u> 、少(中央) <u>やや多(東、中西)</u> 、やや少(中央)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 少(中央) 少(中央) やや少(中央) やや少(中央)

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 5 月 3 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 5 月 5 日から 6 月 4 日

天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れの日が少ないでしょう。

向こう 1 か月の平均気温は高い確率 60% です。降水量は多い確率 50% です。日照時間は少ない確率 50% です。

週別の気温は 1 週目は高い確率 50% です。2 週目は高い確率 60% です。3 ～ 4 週目は平年並または高い確率ともに 40% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	10	30	60	
		降水量	30	20	50	
		日照時間	50			30 20

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	20	30	50	
2 週目		10	30	60	
3 ～ 4 週目		20	40	40	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：5 月 5 日（土）～ 6 月 4 日（月）

1 週目：5 月 5 日（土）～ 5 月 11 日（金）

2 週目：5 月 12 日（土）～ 5 月 18 日（金）

3 ～ 4 週目：5 月 19 日（土）～ 6 月 1 日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻の病虫害

1) イネミズゾウムシ

発生量：やや多（県下全域）

根 拠

(1) 南国市、四万十市の防除適期決定圃では、4 月下旬から発生が見られている。5 月の気温は高いと予想されているため、今後、活動が活発になると考えられる。

対 策

(1) 箱処理剤による防除を行う。

2 かんきつ類の病虫害

1) 黒点病

発生量：やや多（県下全域）

根 拠

(1) 前作の巡回調査では、温州みかん、中晩柑類とも、全てのほ場で発生が見られていた。

(2) 5 月の降水量は多いと予想されているため、発生が多くなると考えられる。

対 策

- (1) 感染は、枯れ枝上に形成された胞子が降雨により分散することにより起こるので、落弁期以降、200～250mmの降水量を目処に薬剤防除を行う。

2) カメムシ類

発生量：多（県下全域）

根 拠

- (1) 4月のフェロモントラップ調査（安芸市、香美市、須崎市、四万十市）では、四万十市を除く3カ所で平年より多めの誘殺が見られている（5月2日：注意報）。
- (2) 昨年の発生量が多かったため（10月2日：注意報）、越冬量が多いと考えられる。

対 策

- (1) 花、幼果を吸汁されると結実不良、落果の被害がでるため園地での発生に注意し、飛来を確認したら薬剤防除を行う。

3 抑制、促成キュウリの病害虫

1) ベと病

発生量：やや多（中西部）、平年並（中央部、西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部で平年並、中央部、西部はやや少なめであった。発生程度は中央部、中西部で平年並、西部はやや低かった。
- (2) 5月の降水量は多いと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

発生量：多（中央部）、やや多（中西部、西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。中央部では発生面積がやや多め、発病程度も高かったが、中西部、西部は発生面積、発病程度とも平年以下であった。
- (2) 5月の降水量は多いと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黄化えそ病

発生量：やや多（中西部）、やや少（中央部、西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。中西部は発生面積、発病程度とも平年並であったが、中央部、西部は発生面積は少なく、発病程度も低かった。
- (2) 気温の上昇に伴い、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。罹病株は早

期に除去し、埋設するなどの処分を行うとともに、作の終了時には保毒虫の分散を防ぐため、蒸し込み等による防除を徹底する。

4) ミナミキイロアザミウマ

発生量：多（中西部）、やや多（中央部、西部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部でやや多め、中央部、西部は平年並であった。発生程度は中西部、西部で平年並、中央部は低かった。
- (2) 気温の上昇に伴い増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

4 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

発生量：多（中央部）、やや多（西部）、やや少（東部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部が多かったが、東部、西部では平年以下であった。発病程度は中央部、西部で高かったが、東部は平年並であった。
- (2) 5月の降水量は多いと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

発生量：多（西部）、やや多（東部、中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は西部でやや多めであったが、東部、中央部は平年並であった。発病程度はいずれの地域も平年以下であった。
- (2) 5月の降水量は多いと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 高温、多湿条件下で多発する。発生が蔓延すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) すすかび病

発生量：やや多（県下全域）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積は平年並、発病程度も低めであった。
- (2) 5月の降水量は多いと予想されているため発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) タバココナジラミ

発生量：やや多（東部、西部）、やや少（中央部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。東部、西部は発生面積、発生程度とも平年並、中央部は発生面積は少なく、発生程度も低かった。
- (2)気温の上昇に伴い増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

5) ミナミキイロアザミウマ

発生量：平年並（中央部）、やや少（東部、西部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積は少なめであり、発生程度も低かった。
- (2)気温の上昇に伴い増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

5 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

発生量：やや多（中央部、中西部）、やや少（東部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部、中西部で平年並、東部は少なかった。発病程度は中央部でやや高め、中西部、東部は平年以下であった。
- (2)5月の降水量は多いと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、やや少（東部）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部でやや多め、中央部、東部は平年以下であった。発病程度は中央部、中西部は高めであったが、東部は低かった。
- (2)5月の降水量は多いと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、少（東部）

根 抛

- (1) 巡回調査では中央部、中西部で発生が見られた。発生面積は中西部で多かったが、中央部は平年並であった。発病程度はいずれの地域も高かった。
- (2) 5月の降水量は多いと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) タバココナジラミ

発生量：多（中西部）、やや多（東部）、やや少（中央部）

根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部でやや多めであったが、東部、中央部は平年以下であった。発生程度はいずれの地域も低めであった。
- (2) 気温の上昇に伴い増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は、上位葉を中心に防除を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

発生量：やや多（東部、中西部）、少（中央部）

根 抛

- (1) 巡回調査では東部、中西部で発生が見られたが、発生面積はいずれの地域も平年並、発生程度は低めであった。
- (2) 気温の上昇に伴い増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) ヒラズハナアザミウマ

発生量：やや多（東部、中西部）、やや少（中央部）

根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年以下であった。発生程度は中央部で高かったが、東部、中央部は低かった。
- (2) 気温の上昇に伴い増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

発生量：多（中央部）

根 抛

- (1) 巡回調査では平年に比べ発生面積は多く発病程度も高かったが、下葉中心の発生であり実害は見られなかった。

(2) 5月の降水量は多いと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 巡回調査では見られなかった。

(2) 5月の降水量は多いと予想されているため発生すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) うどんこ病

発生量：少（中央部）

根 拠

(1) 巡回調査では見られなかった。

(2) 5月の降水量は多いと予想されているため発生すると考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

(2) トマトに発生するうどんこ病は内部寄生性のもの（葉裏に発生する）と外部寄生性のもの（葉表に発生する）2種類がある。外部寄生性のものは病勢の進展も早く、被害も激しいので早期防除を徹底する。

4) 黄化葉巻病

発生量：やや少（中央部）

根 拠

(1) 巡回調査では新たな発生は見られなかった。

(2) 気温の上昇に伴い、本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖が盛んになるため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

発生量：やや少（中央部）

根 拠

(1) 巡回調査では発生面積は少なく、発生程度も低かった。

(2) 気温の上昇に伴い、増殖が盛んになるため発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.